

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	今年度は書き込み式ドリルやドリルパークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習に取り組ませることができたが、基礎学力の向上とまではいかなかった。今後、今年度実践してきたことを継続して行い、学び方を育成していく中で基礎学力の定着に力を入れていく必要がある。また、1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、教科の「見方・考え方」を身につけるよう深い学びに向けて授業の工夫を進めていく。	
思考・判断・表現	毎時間、児童主体の振り返りを行い、児童自身で自分の学びの調整をできるようになってきているので、次年度以降も継続して進めていく。ICTを効果的に活用して授業を実践することができ、教科に応じた「見方・考え方」で、思考・判断・表現できるような授業の工夫を進めていく。	

	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着ははかされてきたが、まだまだ個人差が大きい。 <指導上の課題> ・教科の「見方・考え方」を身につけ知識の構造化ができるよう深い学びに向けて授業の工夫。	⇒ 「ドリルパーク」等を利用し、自分にあった問題を選択して行うようにしたり、個別に必要な支援を講じたりしていく。【通年・毎単元】 教職員研修で教科に関する見識を深め、児童が各教科の「見方・考え方」を働かせる上で必要な知識・技能を身につけさせる。【通年・毎単元】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・学習に対して意欲的に取り組む児童は多いが自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 <指導上の課題> ・教科に応じた「見方・考え方」で、思考・判断・表現できるような授業の工夫。	⇒ 2年間リーディングDXスクール事業指定校として「学びのシンキング・サイクル」(課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ表現→振り返り授業)に継続して取り組んできて成果がみられてきた。今年度は「見方・考え方」を働かせ、さらに深い学びを目指し、思考・判断・表現力を高めていく。【通年・毎単元】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	各教科において、書き込み式ドリルやドリルパークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習に継続して取り組ませることができた。今後、どのツールで学ぶかを児童が主体的に選んで学ぶことができるようにしていきたい。積極的に1人1台端末を活用し、児童が各教科の「見方・考え方」を働かせる上で必要な知識・技能を身につけさせる授業を行うことができてきた。
思考・判断・表現	B	各授業において「学びのシンキング・サイクル」(課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ表現→振り返り授業)を繰り返し行うことにより、児童にも定着してきた。また、どの学年でもICTを効果的に活用し、教科に応じた「見方・考え方」で、思考・判断・表現できるような授業を行うことができてきた。今後、必要感のある課題設定、課題を主体的に解決する場面を設定する取組を充実させていくことが必要である。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において課題がみられた。漢字を文の中で正しく使えていない児童が3割程いる。同音異義語をしっかりと理解させる必要がある。算数では、数直線上に示された数を文数で書く問題において課題がみられた。普段から数直線を使って立式したり、問題文を数直線で表す活動が必要である。理科では、身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかの問題に課題がみられる。金属は全て磁石に引き付けられると考えている児童が多くいる。実際の体験活動を多く取り入れる必要がある。	
思考・判断・表現	国語の「読むこと」では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付け、まとめて書く問題に課題がみられた。文章だけ、図表だけのそれぞれを単体で見るとはならず、互いに関連付けながら見ていく活動を授業に取り入れて行く必要がある。算数では、「図形」の領域において五角形の面積を求めるために二つの図形に分割し、それぞれの図形について面積の求め方を書く問題に課題がみられた。図形を多面的にみて、既習事項を用いて課題解決していく授業展開が大切になってくる。理科においては、どの領域においても全国平均を上回ったが、「エネルギー」を柱とする領域に課題がみられた。理科においては、多くの体験をさせる必要がある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、ほとんどの学年で「言葉の特徴や使い方に関する事項」で市の平均を上回った。全国学力・学習調査の結果では、課題であった項目に改善が見られており、日々の授業の取組の成果が表れている。算数では、全学年を通して「数と計算」に課題がみられた。ドリルパークやドリル等を活用して基礎的・基本的な知識・技能を強化していくことを来年度の研修に組み込んでいく。	
思考・判断・表現	全ての学年・教科において、市平均と比べると「思考・判断・表現」に課題がみられる。しかし、国語では昨年度課題であった「書くこと」の領域において、今年度は全ての学年で市平均を上回っていた。相手や目的に応じて、文末表現に注意しながら書いたり、自分の考えが伝わるように、適切に図表を用いて書き表したりと指導を工夫した成果が現れている。算数では昨年度同様「データの活用」の領域において課題がみられる。算数の授業だけではなく、理科や社会科等、様々な教科を通じてグラフを正しく読みとったり、複合グラフから特徴を見つけたりする活動を行っていく必要がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	書き込み式ドリルやドリルパークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習に取り組ませることができている。1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、教科の「見方・考え方」を身につけ知識の構造化ができるよう深い学びに向けて授業の工夫を進めている。	左記の手立ての実践を進めていく。【毎時間】。
思考・判断・表現	B	毎時間、児童主体の振り返りを行い、児童自身で自分の学びの調整をできるようになってきた。ICTを効果的に活用して授業を実践することができ、教科に応じた「見方・考え方」で、思考・判断・表現できるような授業の工夫を進めている。	左記の手立ての実践を進めていく。【毎時間】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)